

今を受け入れ、今を越える (土田和歌子)

校長 桐野 和之

皆さんは、何かをめざしてがんばっているときに途中でうまくいかないでダメになってしまったことはありませんか。一生懸命取り組んでいたことが何かの原因でダメになってしまう。

今号では、そんなときにその壁を乗り越えて未来志向で勇気をくれる言葉を紹介します。日本を代表するアスリートの土田 和歌子選手の言葉です。

「今を受け入れ、今を越える」

土田選手は、高校時代の交通事故が原因で脊髄損傷となり、車椅子生活になりました。その後、アイスビレッジスピードスケートで活躍した後、陸上競技に転校し、二〇〇一年の大分国際車椅子マラソンで世界最高記録を樹立しました。一九九八年の長野パラリンピックでの金メダルに続き、二〇〇四年のアテネパラリンピックでも金メダルを獲得しました。

二〇一二年のロンドンパラリンピックにも出場し、日本選手団の主将を務め、二〇一三年の大分国際車椅子マラソンで世界記録を更新した方です。

土田選手は、ハードな練習をこなし、これまでの大会以上に深く熱い思いで参加した二〇〇八年の北京パラリンピックの女子五〇〇〇メートルに出場しましたが、レース中の大クラッシュに巻き込まれるという大きなアクシデントに見舞われてしまったのです。病院での診断結果は選手生命さえ危ぶまれるようなものでした。

しかし、その後、「現状を受け入れなくては前に進めない」と考え、現役続行を決意し、事故から三ヶ月後に練習を再開し、二〇一一年の世界選手権・車椅子マラソンで金メダルを獲得、ロンドンパラリンピックに出場することができました。土田選手は著書の中で次のように書いています。

「試練は苦しみではなく人生を好転させるもの」「現状を受け入れなくては前に進めない」「目標があれば、すべて乗り越えられる」

皆さんがこれから生きていく中では自分が夢や目標としていたことが必ずしもすべて思い描いたとおりにうまくいかない方が多いかもしれません。

たとえば、中学校卒業時には多くの生徒が高校受験をしますが、第一志望に合格したいと思って一生懸命にがんばっていたとしても、他校の生徒を含めて受験生全員が頑張りますし、倍率もあります。当日の体調もあります。そのために残念ながら合格の夢が叶わないこともあると思います。それは、大学進学や就職でも同じです。また、入試や就職試験だけでなく、一生懸命に取り組んでいた学問や仕事や目標としていた活動などが途中でダメになってしまうこともあると思います。

そんなときは、土田和歌子選手の「今を受け入れ、今を越える」この言葉を思い出して、未来に向かって希望をもってがんばってください。



第58回入学式

令和二年度の入学式が6月19日(金)の午後挙行されました。4月7日(火)の入学式が延期となり、2ヶ月半遅れでの実施。夏の標準服での実施となりました。実施が遅れた入学式でも一年生の態度は大変立派でした。委員会活動、部活動も始まりましたのでいよいよ本格的な中学校生活がスタートです。

新入生歓迎の言葉

生徒代表 生徒会長

初夏の風が心地よく頬をなでていく、この佳き日。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生一同、皆さんのご入学を心から歓迎します。

新型コロナウイルス感染予防のため、学校は2か月にわたる臨時休校となっていました。その間、友達との楽しい時間が待ち遠しかった人が多かったのではないのでしょうか。また皆さんの胸には、これからスタートする中学校生活への期待と不安が渦巻いていたことでしょうか。しかし、安心してください。これから皆さんが中学校生活を順調に進めていくため、私たち在校生が皆さんの期待を大きく、不安は小さくしていきます。そして皆さんが私たちと一緒に委員会活動、行事、部活動などに一生懸命取り組む中で、充実した日々が送れるようにサポートしていきます。

さて、貫井中学校には、生徒全員が誇れる良い伝統が2つあります。

第1に、生徒たちの明るく元気な挨拶です。一人一人が明るく元気な挨拶をしっかりとすることで、学校全体の雰囲気が温かく和やかなものとなります。新入生の皆さんも、日々の中で、在校生と共に、元気な挨拶を通して、活発な貫井中学校を創っていきましょう。

第2に、生徒一人一人が主体となり、計画的に行動できるということです。その基本を培う三つの大きな行事があります。1学期には運動会。2学期には合唱コンクール。3学期には3年生を送る会。それらの行事で生徒会本部役員、専門委員会、その他の生徒一人一人が係となり、先生方からの指示を待つのではなく、自らが考え、自主的に行動しています。このことはとても大変ですが、行事が成功に終わった時の達成感や満足感は、言葉には言い表せないものがあります。今年は新型コロナウイルスの影響で、どこまで行事ができるかわかりませんが、実施できるときには、私たち在校生が皆さんを引っ張っていきますので、がむしゃらについてきてください。中学生になったという実感がさらにわいてくると思います。これらの2つの良い伝統以外にも、貫井中学校にはさまざまな魅力があります。その一つが部活動です。皆さんが中学校生活で1番楽しみにしていたのも部活動ではないのでしょうか。

貫井中学校には、たくさんの部活動があります。そして、それぞれの部活動で目標を掲げ、日々、その目標に向かって一生懸命活動しています。皆さんは、どの部活動に入部するか迷っていると思いますが、一週間の仮入部期間があります。部活動体験を通して、三年間続けることができる部活動を決めてください。

この他に、中学校には、定期テストと呼ばれる2日間から3日間に渡って行われるテストがあります。教科担当の先生が作成した問題を解くことになるので、1回1回の授



業に真剣に取り組むことはもちろん、テストに向けて自ら計画を立てて、学習しなくてはなりません。頑張りましょう。

皆さんは中学生としての目標を立てたでしょうか。何か一つ、大きな目標を立ててほしいと思います。大きな目標を達成するための小さな目標がたくさん見つかります。その小さな目標の達成の積み重ねが、大きな目標の達成につながります。上手くいかないことや、辛いこともたくさんあると思いますが、そんな時は、一人で悩まず、友達や先輩、家族や先生方に相談してみましょう。明けない夜がないように、きっと道は拓けるはずです。

最後になりましたが、皆さんの中学校生活がより良いものとなるように、私たち在校生と一緒に助け合い、励まし合い、協力し合い、より良い貫井中学校を創っていきましょう。

新入生誓いの言葉

新入生代表

緑が鮮やかに映える季節、これまで延期になっていた入学式を、今日、このようにして行えることを、とてもうれしく思います。

私たち新入生のために、入学式を準備し、行ってくださり、ありがとうございます。



学校生活が始まって、三週間が経ちました。最初は、学習の内容を理解して、授業についていくことができるか、時間の余裕を持たせることができるか、友達を作ることができるかなど、不安に感じていたことがたくさんありました。

しかし、学校での生活が始まると、学習面ではいきなり難しい問題を解いたり、単語や用語を大量に覚えたりするのではなく、小学校で学習した内容を思い出しながら、徐々に中学校の学習に慣れていけばいいということが分かり、安心しました。定期考査や高校受験などの試練にも、自信を持って力強く乗り越えていきたいです。

時間の面でも、友達と関わる時間を確保することができて、安心しました。ただ、本当に忙しくなるのはこれからなので、今からでも、時間を作って管理する力をつけていきたいです。



人間関係についてのことも、クラスの雰囲気がとても明るく、にぎやかなのでとても安心しました。このメンバーなら、三年間楽しく学校生活を送ることができると思います。また同級生だけでなく、上級生の皆さんも、生徒会説明会で、短い限られた時間の中で準備をし、分かりやすく、楽しく委員会のことを教えて下さるなど、頼れる皆さん方で安心しました。上級生の皆さんをお手本に、学習や部活動にはげみ、様々なことにあきらめずに挑戦していきたいです。そして私たち生徒同士はもちろん、先生方との信頼関係もしっかり築いていきたいです。

部活動では、自分のしたいことを選んで、精一杯取り組むことができると聞きました。練習に積極的にはげみ、上級生のみなさんに負けないくらいがんばりつつ、部員みんなとの絆を深めていきたいです。部活動が始まるのが待ち遠しいです。

私たちは貫井中学校の生徒です。自覚や、責任、助け合い、思いやる心を持ち、絆を深め、素晴らしい中学生になることをここに誓います。

給食スタート

給食が6月22日(月)より始まっています。ただし、新しい生活様式で、給食の準備、そしていただくという日々が続いています。

給食の前に先ずは入念な手洗い。そして手指消毒。さらには距離をとっての準備活動。配膳は以前と違い、教室の前と後ろで出来る限り距離をとっての配膳となっています。

給食は本来、グループで会話を楽しみながら食べていましたが、今は対面をせずに前を向きながらの食事。少し味気ない感じもしますが、これもやむを得ない状況です。しかし、教室にクラスのメンバーが一堂に会しての給食は学校の休業時と比較すると子どもたちにとっては楽しいようです。しばらくはこのような食事スタイルでの給食が続きます。



部活動説明会実施

6月24日(水)に部活動説明会が実施されました。本来この取り組みは一年生が入学後、中学校生活をスタートさせてからすぐに実施されていたものです。しかし、今年は入学式が延期になり、そして学校の休業が長く続きました。そのためなかなか実施することが出来なかった取り組みです。その催し物が生徒会と各部の部長会が中心となって行われました。

新入生にとって部活動は中学校入学後の楽しみの一つ。その期待の大きさも相当なものがあります。説明会に参加した一年生の表情も大変にこやかでした。また、各部の上級生も自分の部への勧誘、そして先輩としての自覚からいろいろな手を尽くし、工夫を凝らしながらの説明や見ていて楽しくなるパフォーマンスでそれぞれの部を紹介してくれました。そのため、一年生にとっては本当に有意義で楽しい一時となりました。一年生にとっては今後、仮入部を経て部活動入部という道を歩んでいきます。



「失敗を嫌がらない」 (6/29朝礼講話より)

「人間は転ぶことで歩くことを覚える」という言葉があります。赤ちゃんははじめ、歩くことができません。ある時期に立ち上がって歩こうとしても、すぐに歩くことはできません。ご家族の方の差し出す手に向かって、何度も歩こうとしては転び、転んでは歩こうとして頑張ります。ご家族の方は、にこにこしながら赤ちゃんを励まします。そして、ついに歩くことができたときに、ご家族の方も大喜びで抱きしめます。そう、赤ちゃんが転ぶことを「悪いこと」だとか「恥ずかしいこと」などと思う人はいません。赤ちゃんは何回も「転ぶ」ことを経験したからこそ、歩けるようになったのです。皆さんはその時のことを覚えていないかもしれませんが。



例えば自転車に乗れるようになった時のことを思い出してみてください。乗れるようになるために何度も練習したと思います。失敗しても、それにめげず何度も練習したことを覚えていませんか。人間は生まれたときにはできなかったことが、その後にはできるようになっていく不思議な動物です。でも、「失敗すること」を恐れたり、嫌がったりしては出来ないのです。もう一つ大事なことがあります。それは失敗した人をからかったり、笑ったりしないということです。学校や教室は、失敗したり、間違ったりして良いところなのです。失敗した人をからかったり、笑ったりする人がいると頑張る意欲がくじけます。幼い赤ちゃんを励ましたご家族の方のように、優しさをもって、安心して失敗できる学校を皆さんの力でつくる必要があります。そして、常にチャレンジする気持ちを忘れないでください。